

研修参加報告

メッセージノートを書いてみませんか

7月4日、ウェルパル熊本で「人生の最後に受たい医療とは」と題し、メッセージノートに関する熊本市主催の講習会がありました。サ高住から野田が参加してきましたので、ご報告します。



メッセージノートとは、エンディングノートとも呼ばれ、書式なども様々ですが、これからの生き方、終末期をどう迎えるかの覚書のことです。講習会では、呼吸が止まった・心臓が止まった場合の選択肢、また、その時用いられる器具も実物で説明があり、意思表示の重要性を再認識しました。

参加者は、職種も施設の形態も違う福祉系の60名でしたが、自分たちが関わる入居者・利用者の終末期について、「その人らしく」とは何なのかを強く考えさせられました。

終末期とは無縁の時期から、どう生きていきたいかを意思表示し、その思いに変化があれば、随時更新していくこと。また、その思いを分かる形で周囲に知らせておくことも、自分らしい最期を考えるととても大切なことだと感じました。

ノートは市から無料で配布されています。フロントまでお気軽にお声かけ下さい。



小規模多機能型居宅介護はるかぜ

手作り野菜で調理レクレーション

前ページで、園芸の記事がありましたが、小規模はるかぜの野菜は程よい大きさに育ち、無事に収穫することができました。

せっかく収穫した野菜はみんなで料理して食べよう、と調理レクレーションを実施。なすびは1cm幅の輪切りにしてホットプレートで焼きなすにしました。

「最近料理も卒業してしないからねえ」と包丁を手に悪戦苦闘される利用者さんもおられましたが、無事に下準備も完了。焼き色を見ながらみんなでホットプレートを囲みました。焼きあがったナスはかつお節・すりゴマ・手作りポン酢をかけて、3時のおやつにパクリ。「あっさりして、美味しかね」と皆さん絶賛されました。



この包丁は切れんね〜
包丁が悪いのか、
腕の力がなくなっているかねえ…

